



私の3冊

岡本隆嗣

後輩に薦める2冊

田崎義昭，斉藤佳雄（著），坂井文彦（改訂）

ベッドサイドの神経の診かた，第18版 南山堂，2016年

学生時代，神経内科の実習前に薦められた本です。リハビリテーション科に入局後も，神経症状を評価する際に何度も目を通しました。しばらくご無沙汰していましたが，生活期リハビリテーションで神経疾患の患者さんにかかわることが増え，多様な神経症状を勉強するためにときどき開くことがあります。学生向けの本ですが，若手の先生にはよい本だと思います。

Stanley Hoppenfeld（著），野島元雄（監訳），首藤 貴，狩山憲二（訳）

図解 四肢と脊椎の診かた 医歯薬出版，1984年

リハビリテーション科に入局してすぐに，上司に薦められた本です。評価を療法士任せにせず，自分で患者さんの状態を把握しろ，と何度も指導されました。神経レベル，関節，筋肉の触診を勉強するには最適な本だと思います。今でも診察の参考にさせてもらっています。

自分の1冊

上田 敏（著）

目でみるリハビリテーション医学，第2版 東京大学出版会，1994年

リハビリテーション科専門医試験の勉強をしているとき，医局でみつけました。内容はまさに目から鱗，臨床上のいろいろな疑問が氷解しました。初版は50年以上前ですが，今でも参考になる記述がたくさんあります。姉妹書に『目でみる脳卒中リハビリテーション（東京大学出版会，1981年）』があり，こちらもお薦めです。

■ おかもと・たかつぐ 医師18年目 西広島リハビリテーション病院

母校である東京慈恵医科大学リハビリテーション医学教室で学び，専門医を取得した後，2007年より出身地である広島で診療を続けています。現在は回復期リハビリテーション病棟の診療統括だけでなく，通所や訪問を利用されている方の訪問診療やリハビリテーション会議，また地域支援活動や，介護予防（健康増進）などの地域に根ざしたリハビリテーション活動も担当しています。最新の知識や技術だけでなく，基本に立ち返るうえでこの3冊はお薦めの本です。